

広汎性発達障害児の競争と協力に関する随伴性の弁別

—高次条件性弁別を用いた指導プログラムの検討—

Discrimination between competitive and cooperative contingencies in a child with PDD

○竹井 清香* 高浜 浩二** 野呂 文行**

Sayaka TAKEI, Kohji TAKAHAMA and Fumiya NORO

*筑波大学教育研究科

**筑波大学人間総合科学研究科

Master's Program in Education, University of Tsukuba

【目的】

社会的随伴性の代表的ものに、協力行動の随伴性と競争行動の随伴性がある。集団社会生活においては、社会的随伴性を適切に弁別し、適切な行動を遂行することが必要である。松岡・野呂(2001)は高次条件性弁別の枠組みを用いて相互援助行動の形成を行った。高次条件性弁別による随伴性の分析と、弁別刺激の視覚的な提示は随伴性弁別を促すと考えられる。本研究では、競争と協力の場面を設定してそれぞれの随伴性に応じた行動の遂行のために必要な変数を検討することを目的とした。また、高次条件性弁別の枠組みで随伴性を分析し、弁別刺激を視覚的に示すことで、弁別が促進されるかを検討した。

【方法】

1 参加児 広汎性発達障害と診断された研究開始時生活年齢6歳9ヶ月の男児であった。生活年齢5歳9ヶ月に行ったWPPSIの結果は、全検査IQ99、言語性IQ71、動作性IQ129であった。

2 セッティング 参加児とSTが机を隣り合わせて着席し、机上に提示されたプリント形式の計算課題に解答した。アセスメントの結果から、2桁+1桁でくり上りのある加算20問を計算課題として用いた。STの正答数は統制した。

3 手続き 3分間を1ブロックとし、試行終了後に指導者が丸つけを行い、正誤のフィードバックを行った。

分化強化条件 競争場面と協力場面の2つの随伴性を設定して、それぞれでのパフォーマンスを評価した。場面の設定をTable1に示した。

Table1 競争場面と協力場面の設定

	強化条件	標的行動
競争	STより多く正答(14問以上)	援助しない
協力	二人とも9問以上正答	STに対して4問以上援助する

援助行動の集中トレーニング条件 協力場面のみを実施した。指導者は参加児がSTに対して援助行動を始発するよう教示した。

随伴性弁別トレーニング条件 競争と協力の弁別を獲得することを目的として実施した。随伴性に関する教示は文字を用いて視覚的に提示した。

競争・協力随伴性混在条件 参加児とST3名を2チームに分け、合計正答数の多いチームに強化を与えた。

文字カード提示条件 混在条件の試行前に、文字カードを用いて随伴性を視覚的に提示した。

4 従属変数 課題の遂行の指標として、参加児の正答数を記録した。また、援助行動の指標として、STに対する教示数を測定した。

5 実験デザイン 各トレーニング条件の前後に、分化強化条件を実施する反転デザインを用いた。また、分化強化条件においては、競争随伴性条件・協力随伴性条件について条件交替デザインを用いた。

【結果】

計算課題における参加児の正答数と、STへの教示数の推移をFig.1に示した。随伴性弁別トレーニングを行った後の分化強化条件において、協力場面でのみ援助行動の始発がみられた。競争・協力随伴性混在条件においては、文字カードを用いることにより、同じチームのSTに対してのみ援助行動を始発した。

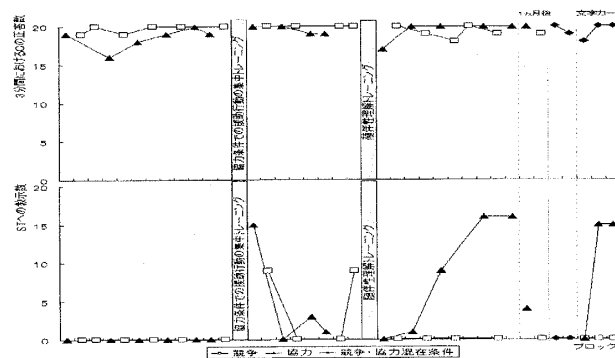


Fig.1 計算課題の正答数(上)と援助行動数(下)の推移

【考察】

本研究において、参加児は随伴性の導入や援助行動の教示のみでは随伴性にとつた行動の遂行に困難があることが示唆された。援助行動を機能化し、維持・強化するためには、随伴性を弁別した上で援助行動を遂行することが必要であると考えられる。随伴性弁別トレーニングでは、競争・協力の各場面、他者の課題遂行状況を視覚的に提示した。この結果、複数の弁別刺激を手がかりとして機能するようになり、それぞれの随伴性に応じて援助行動の分化が可能となったことが推測される。また、競争・協力随伴性混在条件においても、随伴性を視覚的に提示することによって、援助行動が分化したと考えられる。しかし、参加児の行動は「競争のときは教えない」「協力のときは教えてあげる」というルールに基づいて援助行動を始発したルール支配行動とも考えられる。また、相手のパフォーマンスを変化させた場合など、より日常に近い文脈においても随伴性に応じた行動が遂行できるために必要な変数を検討することも必要である。

【文献】

松岡勝彦・野呂文行 (2001) 発達障害者における相互援助行動の形成に関する研究—条件性弁別の枠組みを用いた予備的検討—. 心身障害学研究, 25, 1-12.